

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772001745		
法人名	(株)ユニマットそよ風		
事業所名	あびこケアセンターそよ風		
所在地	〒558-0013 大阪市住吉区我孫子東3丁目3番11号		
自己評価作成日	平成26年6月13日	評価結果市町村受理日	平成26年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の希望があった場合は、医療機関と連携しながらターミナルケアを実施する。</li> <li>・利用者が楽しみにしている外食レクや散歩等、外に向けてのレクを実施し気分転換を計り開放感を感じてもらえる様な雰囲気作りを心掛けている。</li> <li>・利用者に四季を感じて頂く為に、季節に応じた行事を取り入れたり、家庭菜園で収穫した食材を食べてもらう事等大事にしている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>あびこケアセンターはグループホームとショートステイ及びデイサービスの3事業所を運営している。それぞれの設備、備品、車両等共用することで各々有効に活用されている。厨房もその一つで週3日はここで作られたものをグループホームにも提供される。他の日はホームで、利用者の好みに合った食事を作っている。何れもおいしいと好評である。地域のボランティアの慰問訪問では、デイサービスセンターに集まり音楽や奇術を楽しんでいる。ホームでは利用者を元気で楽しく暮らせるよう、お茶、お花、書道、音楽療法など、また外食や散歩、芋ほり、野菜の収穫と戸外へ出て気分転換も図っている。管理者と職員は利用者を本当の親や家族と思って介護に励んでいる。心の通い合ったホームである。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームでの信念として「共に生きる」を掲げており、職員はそれを理解し地域の保育所の運動会に行ったり、クリスマス会に来てもらい楽しく歌を唄ったり話をしたり等取り組んでいる	「地域の信頼を育み共に生きる」と事業所独自の理念を掲げ職員一同朝礼時などに唱和し、その実現に向けて励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・食事レクとして月に数回寿司屋お好み焼き屋等、色々なお店に行き食事やお茶を飲んだりしている ・貸農園にて芋掘りや玉ネギの収穫を行っている	町会に加入し、夏祭りなどの行事に参加し、散歩や買い物時に近隣の人々と挨拶を交わす。農家の好意で野菜の収穫をさせて貰ったり、また、ホーム前の植栽の手入れ、水やりをやってくれる隣人もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩に出かけ、近所の方と会った時等、日々の暮らしぶりや身近な出来事を話したり、時には手作りの採れたて野菜や花を頂いたりして交流を計っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事内容や事故報告書等の報告だけで、終わる事が無い様に合同レクの日に開催し、利用者様の様子を御家族に見てもらえる様心掛け、地域で活用出来る情報が出た場合レクリエーションに取り入れている	町会代表、民生委員、地域包括支援センター職員入居者、その家族などの参加で、2~3か月ごとに開かれている。会議は双方向的で意見提案など運営に生かしている。昨年は5回開催された。	会議は地域住民にグループホームを理解してもらう機会と捉え、認知症高齢者のケアに対し理解を得るため、年6回の開催と構成委員の幅広い参加による活性化と活用が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方の家庭訪問時、色々な相談をして意見を頂いている	市職員とは、グループホーム連絡会に参加時、また年数回の訪問時にホームの状況報告をし、意見助言をもらっている。生活保護受給利用者の手続等で毎月相談をし協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・御家族の同意を頂いた「やむを得ないケース」でも時間を決める等、出来るだけ拘束無しで行ける様努めている ・昨年より減少している	職員は研修等で身体拘束の具体的な行為を正しく理解している。以前には、やむを得ず拘束した例はあったが、現在は無い。玄関は安全を優先し、家族の了解で施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の勉強会や外部での研修を受講する事で、互いに再確認し、それに基づいて介助を行う様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会・書籍等を利用して理解し、活用出来る様心掛けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時間は、十分に取り、理解納得してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が意見や要望を出せる環境作りを行い、御家族には、面会時に生活記録を見て頂き、疑問や要望を聞く様にしており、家族会を設け意見交換を行っている	利用者とは常に話し合っており、意向を把握し、家族には訪問された時必ず利用者の状況報告をしたうえで意見希望を聞くようにしている。家族会や運営推進会議でも聞き取るようにしており運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用し、意見や提案を取り入れる様にし、会議にて意見の交換を行っている	管理者は職員と年1回個別面談をし、随時話し合っている。月1回の全体会議、ユニットごとの会議にも出席し話し合っている。意見提案は、大切にし運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約満了時前に一人ひとり面談を行い、意見を聞き、出来る事は取り入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は、自由に閲覧出来る様にしている。実際スタッフは、研修に自由に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市社会福祉研修・情報センターの研修に、出来るだけ参加しサービスの質の向上を計っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に御利用者、御利用者の御家族と面談をし、暮らしぶり等の聞き取りを行い、入所されてからも出来るだけ、今まで通りの生活が送れ不安が軽減出来る様、心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面接時に御家族の思いを伺ったり意見や要望を取り入れたケアプランを作成する様にしている ・家族会では、御家族とコミュニケーションを計る様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを導入する前に、御家族に確認を取り、本人にとって的確なサービスかを確認しプランに反映している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりのADLにあわせた、お手伝いを一緒にする事で、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お誕生日・個別レクリエーション等への参加を促し、触れ合う時間を大切にして頂く事で、御家族と協力し合える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知が進み馴染みの人や場所を覚えていた人が少なくなっているが、御家族の情報や希望・趣味を考慮し、カラオケや買い物に行く等支援している	馴染みの店での買い物、食事、美容院、墓参り等家族も一緒の場合もあるが、殆ど事業所に対応支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者一人ひとりの性格を理解した上で、御利用者同士が円満な関わりが持てる様支援し、居室等に長時間居る事の無い様に声かけを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状、暑中見舞い等で報告を聞く様にしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・意向に添える様に努めている	症状、理解力、意向の発信力の異なる一人ひとりの立場になって、考え、話し合いながら意向を把握している。態度、表情、仕草などから希望に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族から聞き取りを行い、その情報やセンター方式を活用している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時の際、特変の無い方でも声かけを行う等、職員同士での情報交換を密にする事で一人ひとりの現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、担当者会議を開き、主治医や家族の意見要望を聞き、それらを反映したケアプランを作成している	3か月ごとに計画を見直している。モニタリングを行い介護計画案を作成し、本人、家族と相談し主治医の意見も聞いて新しい介護計画を実施する。症状に変化があれば、随時現状に即して変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りノートを活用把握する事で、スタッフ間での情報を共有し、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の場としての安全を第一に考慮し、外出レクや個別レク等といったニーズに合わせ、職員の増員を行う等出来る限り柔軟な対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園への訪問やボランティアによる音楽演奏や人形劇・フラダンス等、とても楽しみにされ、喜んで参加されている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人御家族が希望する掛かりつけ医により月2回の訪問受診があり、必要があれば希望の病院を受診している	入居時に本人、家族の希望により、かかりつけ医を決めている。ほとんどの人は協力医療機関で月2回受診している。必要な他の診療科も協力医の紹介で受診でき、万全の医療体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度、掛かりつけ医からの訪問看護があり、日中はデイ・ショートの子の協力の協力により、日常の利用者の健康管理に留意している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は、ケースワーカーと密に連絡を取り、一日も早く退院出来る様努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にターミナルの説明を行い、状態に変化があった場合は、その都度、身体の状態によって医師や御家族との連携を取り方針を決定し、ターミナルを実践している	利用契約時に将来重度化した場合の対応に関する指針を示し、事業所の対応を説明し同意書を交わしている。医師が終末期と判断した場合、家族の希望があれば看取りを行うことを再度説明し同意書を交わし、関係者一同方針に沿って対応する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変によりターミナルを迎えた方が、数名おられ実践を通して、経験し実践に生かしている。 ・事故発生時にも初期対応が出来る様普段から訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の消防訓練を実施し消防署の全面的な協力体制の下、非常時に備えている ・地震については、全体会議等で職員全員で研修を行い勉強している	年2回避難訓練を行い、1回は夜間を想定している。避難経路は消防署の指導でベランダに誘導することになっている。非常用品の備蓄も万全である。近隣の人たちの応援体制はできていない。	夜間職員の少ない時、体力の弱い利用者の避難に、近隣の人たちの応援は不可欠である。そのための組織作りと非常の際に混乱しないよう普段の訓練の積み重ねを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応の仕方には、常に注意を払う様、指導している	管理者の指導や職員間の話し合いで、声かけや接する態度は、優しく丁寧である。特に一人一人の状態を理解し本人に合った声かけをしている。個人情報書類等は鍵付きロッカーで適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から、気づきを大切に利用者の仕草・表情等どんな小さな事でも見逃さない様心掛け、御利用者の思いに対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気や入居者等の体調によりレクリエーションスケジュールを決めているが御本人のペースで参加して頂く様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御利用者のADLに応じて、朝のモーニングケア時に自ら整髪してもらったり、洋服を選んで頂ける様支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日や記念日等では、好きな物を聞きメニューを決めたり、出来る御利用者には調理の準備を手伝ってもらったり、食器を拭いてもらったりしてる	週3日はセンター厨房で調理され、他の日は事業所内で作る。利用者の好みに合わせ、おいしい食事が提供されている。職員一人は検食と一緒に食事をしている。準備片付けなどで利用者もできることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス・水分量を記録に残す事で把握し、一人ひとりに合った食事形態で提供出来る様に支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診歯科より指導を受け、その人に合った歯磨きや歯間ブラシ等を使用し、出来る方は御本人で行って頂き、困難な方には介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し利用者の排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレを促したり誘導を行っている	排泄チェック表で排泄リズムを把握し、或いは表情や仕草で察知しトイレに誘導し、排泄自立を支援している。リハビリパンツを使用しているが、昼間はおむつは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや玄米を使用したり、ヨーグルト等の食材を取り入れたり、適度な運動を行ったりして予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤や落ち着いた環境を整え、入浴が楽しいと思って頂ける様にしている	週3日を入浴日とし一回ごとに湯をかえる。柚子湯、菖蒲湯などの日もある。希望すれば毎日でも入浴できる。時に拒否する利用者もあるが、いろいろ手を変えて勧めたり、体調に合わせ清拭や足浴することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温や寝具の状態等の環境整備を整え、特に就寝前は落ち着いて頂ける様、声掛けを行う等して安心して気持ちよく眠れる様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どんな病気があり、どの様な薬を服用しているかを普段からスタッフに把握してもらい日々の健康チェックを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞やパンを取りに行ったり、歌の時間を優先して取ったり、近所の観音様にお参りをしてもらったりして気分転換を計ってもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体機能が低下されている利用者様も車椅子を使用する事で、散歩に行く事が出来、地域のお好み焼き屋やお寿司屋に行く等して喜んで頂いている	週2日ぐらいは近所の散歩に出かける。その他買い物や、外食にも出かけている。季節の良い時期には車で少し遠い所へ出掛ける。大泉公園や住吉大社には家族の協力も得ながら遠足を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で金銭管理をする事で安心される方は所持されている。出来ない方に関しては事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族が納得されている場合は、スタッフが援助し電話をかける事もある。また年賀状に御家族に宛てた文章を書いて頂き送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダに季節を感じさせてくれる植物や菜園・花等を植えたり、壁に季節に合った貼り絵等を貼ったりと季節を感じてもらえる様工夫し、収穫した野菜は食卓へ出して味わって頂いている。	壁に職員と一緒に作った手芸品や、習字作品、行事写真が張り出され、明るく華やかである。ソファが適当に配置され、畳のスペースもあり、どこでも寛げる。厨房から食事作りの匂いも漂い、季節感、生活感がある。トイレ、浴室など清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、全員がくつろげる事が出来、廊下の奥にもソファを置いてお茶を飲んだりCDを聞いたりして頂ける空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ馴染みのある家具を入れて頂く様お願いし、精神的に少しでも落ち着ける空間作りに努めている	ベッド、洋服ダンス、机は備え付けで、椅子や家具など使い慣れたものが持ち込まれ、壁に家族の写真など貼られていて従来からの生活の継続性が感じられ、落ち着いて、居心地よく過ごせるよう設えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所に手すりを設置し、トイレの表示もあり、廊下も広く歩き易く自由に動ける様にしている		